

## 滿洲文獻小論

### A Short Remarks upon the Type of

Manchu Literature. By, A. W.

Grevenshievef, Vladivostok, 1909.

黒龍江省の村落では、文書を甚だ澤山に發見したとは云へないけれども、言葉の上に特異なる光彩を放ち、模範となり、一種の風韻をそなへて居ることは争へない事實であるが、北京に在る書籍は、其内容が多様で、冊数が非常に多く、且つ其多數は既に出版されてゐることが特に目に立つて見える

北京は、試に文學の中心と稱すべきで、大きな書店が百五十餘戸もあり、圖書は個人の家所に所藏せられてゐるものゝ外、公使館にも保存されて居り、ロシア政府の力でも集まつてゐる。(自分は一九〇八年に北京でロシア公使館と、ロシア傳道教會との圖書館で澤山滿洲語の圖書を閲覽する豫算してゐたが、全く其

の目算の齟齬したのは遺憾の至りである) して大きな書店の在る所は、瑠璃廠と、内城とである内城では滿文の書籍を扱ふ家は四五軒に過ぎないのであるが、瑠璃廠の方は今少し多く彼是二十軒もあるだらう。

それから、北京で書物を搜すと、書店同志の間に、特殊な連絡があるので、一つの店にないものでも他店にあれば其を手に入れることが出来る。

して滿語で書かれた書物の需要の少ないことは、自分が書店を捜査してゐる時に覺り得た所で、(一九〇八年十一月) 唯純滿人の官吏の或社會、民間の藏書家、又は滿洲語に興味を持つてゐる外國人位が、滿文の書籍を購入するに過ぎないのである、して、自分の下に掲ぐる分類語は、唯大體に従て區分してゐるとのとて、細かい内容にまで立入つてきめたものではない、實際内容の細部について判然たる區別を立てるのは、随分困難なことで、中には極めて不

確實な處も出来る、例は一つの書中に、宗教の事もあれば、政治に關した點もあり、歴史、地理に屬する部分も交つて居るかと思うと、土木工學に涉つた記事も見えて、とても此を或部の中に入れてしまふことが出来ない、然しどうすると何だか不得要領で、信用が出来ない様な氣がする、此ういふ事情であるから、自分は、自分の手許に在る滿文の書物を次の様に分類することとし、滿文の書目を擧げると同時に、最近刊行で、メルレンドルフ氏、イワノフスキ教授の著書に解題してないものは、極簡単に其内容を摘記することとした。

甲、字書類

乙、滿文、口語研究階梯

丙、歴史的作品、紀行、傳記、

丁、哲學書、修身訓話、宗教及び禮儀書、

戊、詩歌、小説、物語、

己、律令格式、勅宣、報告、

甲類

一、清文典要、

四帖又は五帖、漢、滿兩文並記、一七三九年(乾隆四年)版、ドイツ東洋學會雜誌第十六卷五三八所載カミレンツ氏論文及メルレンドルフ氏解題第十號參照

二、御製滿洲蒙古漢字三合切音清文鑑、

Mantsou Mongo Nikan khergen i ilan khatehin i moundan arakha boulekon bitke 二十六帖、三套メルレンドルフ氏 Essay on Manchu Literature. Journal of the China Branch of the R. A. S.

XXXIV. には第四十三號として解題し、二十四帖と記せり、

三、Khan i Arakia mantsou gisou boulekon bitke. 滿文正文のみ、四十八帖、六套

四、同文廣彙、四帖、滿漢兩文、配列は音韻に従はずして、物類に由る、

五、Nikan Khergen i onbaljamboukha mantson

gisoun i boulekou bitkhe. 漢滿語句、一譯文、

一帖、メルレンドルフ氏の説に依れば、本字書

はミンドー氏の作なりと、Essay on Manchu

Literature No 38 参照。

六、清文補彙、Mantson gisoun be nijehemeisa

boukha bitkhe ザハロン氏滿露字書序文第十八

頁第六、メルレンドルフ氏第四十號参照、

七、清文彙書、Mantson isaboukha bitkhe 十二

帖、滿漢辭書、字音順に配列し Amiot の字書

を基礎とす、メルレンドルフ第三十九號、

八、四體合璧文鑑、Doin Khatchin Khergen i

kantchikha boulekou bitkhe 滿語辭書、蒙古漢

西藏語譯、事物分類、十帖、二套

九、御製滿文鑑、Khan i Arakha mantson gisoun i

boulekou bitkhe 二十帖、メルレンドルフ第三

十五號

十、清文總綱鑑、Khan i Arakha Mantson gisoun

i boulekou i bitkhe 本書第二章は托忒文字總綱

鑑に收録せらる、八帖一套本書又筆寫にて對譯

蒙古語を記入しあり、

十一、清文鑑、Mantson gisoun i boulekou bitkhe

滿漢對譯字書、一帖、ザハロン滿露字書第十六

頁、第二、

十二、清文總彙、滿漢字書、發音順に配列しあり、

十三、Mantson mongo nikan onbaljamboukha

bitkhe 寫本字書二帖、滿語單語及小熟語に漢蒙

の譯語を附す、約百五十葉、各頁には八語を記

す、

十四、清文廣彙全書、オクタボ形四帖、漢文序文

あり、語類によりて配列、例は、天、時、地等

の如く、漢字を書し、其下に滿文を配列せり、

メルレンドルフ第三十一號、

十五、御製增訂清文鑑、Khan i Arakha nongime

toktoboukha Mantson gisonn i boulekyou bikhhe.

初の二卷は康熙帝乾隆帝の序あり、(Langels,

Alphabet mandchou; Klaproth Verzeichniss der

chinesischen und mandschurischen Bücher S. 61

参照) 第二卷は、滿文字母にして、以下三十二

卷には、天、地等の部類に従がひて單語及其意

義を列記し、次の八卷には滿洲語の各字母によ

る索引、各部門内の細目を擧げ、最後の五卷に

は新作の單語及其索引を載す、メルレンドルフ

第三十六號、

十六、滿漢六部成語、1. Khafan Tsoungan, 2. Bo-

igon i Tsoungan, 3. Dorolon i tsoungan, 4. Tchoo-

khai tsoungan, 5. Beidere Tsoungan, 6. Welere

Goungan 六帖、漢滿兩語にて記す、同光二十二

年(一八四三)出版、

十七、公文、寫本、中形本十二帖、漢滿兩語にて

常用の語句を記す、各卷の表紙に其内容の目錄

を記し、各目の下には漢字成語の頭字を擧ぐ、

次に各漢字成語の下に滿語にての譯語を掲ぐ、

されば滿語にての成語を搜り出せば必ず漢字の

成語をも發見するを得べく、卷尾には索引を附

せるにより、頭字のみを搜り出せば容易に各字

をも搜索するを得べし、此書編次の體裁及内容

の状態に由るに、本書は、漢字を知れるものを

して滿文を習得せんとするに當り使用せしむる

を目的とせるが如し、本書は、其の特色により、

漢滿字書成語、用字法を記載するものといふを

得べし、

乙類

一、清文典要大全、Mantsou bikhhei Kooli oriongo

iooni bikhhe 滿漢兩文正文、十帖、

二、初學指南、寫本滿漢兩文正文、二帖、

三、清文啓蒙、Mantsou nikan Khergaer i tohing

ben ki meng bikhhe 一七三〇年版、四帖、第一

- 帖、發音及文字正記法、第二帖、滿漢會話、第三帖、品詞及冠語總計二百五十四、及其用法、第四帖、文字書記の際注意を要する文字の目錄、同意同語目錄、(ザンロン氏滿蒙字書十六頁、ウラヅィキン氏著滿洲語小文典、)本書は清文啓蒙第二帖の反譯とす)メルレンドルン氏第一號、ガムレンツ氏 Zeitschrift der Morg. Ges. XVI S. 539 ャーロー氏 Wylie 清文啓蒙 A Chinese Grammar of the Manchu Tartar Language with introductory notes on Manchu literature. カントン氏 Grammatica Manosse Compendiata dall'opera Zinsec Zing wen ki mung
- 四、英漢清文、全四帖、
- 五、Mantsou nungo nikan Gisonng mejen 滿、蒙漢成語集、二帖、
- 六、連話頭本、寫本六帖、滿漢蒙三成語、會話書、
- 七、蒙古文晰義方程、Mangou Khergen i tsonngan

批評及び紹介

- be faksalakha bitkhe 全四帖一套滿語及小句を擧げ、之に漢蒙兩國語の譯文を添ゆ、メルレンドルン氏第三號、
- 八、公文成語、Siden i bitkhe itohikhijana de baitalara toktokho gisonn 壹冊、
- 九、官衙名目、Khafan khergen i gebou 滿漢兩文、一帖、
- 十、衙署名目、Tsonngan jamoun i gebou 滿漢兩文、一帖、
- 十一、隨意酌用、滿語成語、及其漢譯二帖、
- 十二、清語問答四十條、Mantsourane tsourie tsahoure gisonn dekhii mejen 一帖、乾隆二十三年滿文の序あり、筆者は Dekhi Mejen の著者ユングイにして、先づ言語の思想行動の上に極めて重要な地位を占め居ること、次に正確にして明瞭なる表示の必要を説けり、又序文の意によれば、本書は先づ滿文を以て問答の正文を記

し、漢文は後に附加したるものと見ゆ、又本書には種々道徳的法則を掲げたる旨を記し、以て子孫をして由て立つべき道を知らしめんとす又其末文に、此書を讀まんものは、公私の行動に於て益する所あらんの語あり、メルレンドルフ第十八號、

十三、續編兼漢清文指要、*Sirame banzibonkha ni-kan khergen i kamchibonkha nantsou gisoun oiongo tsorin birkhe* 滿漢正文、一帖、オクタゴ形三十葉、

十四、清文指要、*Mantsou gisoun oiongo tsorin i birkhe*、二帖、滿語字句に漢文の反譯を附す、メルレンドルフ氏第十七號に本書に關する記事あり、

十五、清文接字、*Tchin wen zije zui birkhe* 一帖四十五葉、出版年次光緒十四年、著者嵩洛峰、本書冒頭に清朝の長白山地方に興りたること、官

吏試験法の編纂は政府の試験法を模範とせしこと、自ら本書の記載する所を基として修養せること、後進の子弟も宜しく此を規箴とすべきことを叙し、次に嵩洛峰は本書を作り之を其弟子スンシェンに授けて世に行はしめ、スンシェンは己が父樸山嵩實に(ワンシ、部 *Wangia* の人)與へ、嵩實本書に序し、又敬嗣に命じて本書を刊行せしむ、序は同治三年九月九日の執筆にして跋文二章は漢文にて記され、中一文は同治五年作となす、

十二、滿漢成語對待、*Mantsou nikan fe gisoun be tsoufokho atchabonkha birkhe*、四帖、序文七葉(内容省略に従ふ)メルレンドルフ第二十號、

十七、滿漢合璧字法舉一歌、*Mansou nikan Khergen Kamchih Atchaboune zui fa gijoui i birkhe* 二帖、オクタゴ形七十七葉、序文は榮氏の傳に始まる、榮氏始め金州の徐沃田に従がひ、後隱書

田に就きて學ぶ序其消息を詳らかにす、次に斯學の容易ならざるを述べ、本書編次の擧に及び、材料を四書、聖諭廣訓に取りし所以を叙せり、蓋し著者の見る所、本書は滿人を益するのみならず、漢人も大に便利を受くるならんと、終りに本書の集成、刊行等に執筆せし人名を録し、小序には、又本書の與ふる裨益と、刻苦自得の境に至るべきを叙せり、第二卷の終りに跋文あり、前記の二序と共に皆漢文なり、出版の年月明記なし、

- 十八、Mantson nikan boujarame mejan bitkhe. 内容多様一帖、オクタゴ形二十葉、寫本にして滿文の本文に副ふるに漢譯を以てす、
- 十九、話條好話寫本、一帖
- 二〇、一百話條、問答體滿漢兩文、一帖、
- 二一、三合便覽一書 *Ilan khatchin gisonn kám-tchiboukha touwara de tsa oboukha bitkhe* 十二

帖、第一帖には三國語にての序、滿語の字母、蒙古語文典、滿語文典に就きての説を載せ、第二帖より第十帖までには、三國語の單語を集録し、第十一、第十二帖は三語の小句を收む、本書第一卷中の蒙古語文典及滿語文典に就きては、カベンツ氏が *Zeitschrift für die Kunde des Morgenlandes* 誌上にドイツ語にて發表せることあり、メルンドルフ氏第二號、

- 二二、*Bale tsekou i Khatchin*. 一帖、滿文、
- 二三、*Tsouwan tsouwe ousou i bitkhe*. 滿文字母十二別、滿文典小論を收録す、寫本貳帖、
- 二四、五本 *Ou-ben* 滿漢兩文典實例、寫本、
- 二五、滿洲雜話、*Boujarame Gisonn* 滿文の下に漢譯を記入せるもの、一帖、二十六葉寫本、メルンドルフ氏第十九號、
- 二六、*Gisonn mejan*. 小句を收録す、滿文寫本一帖、

二七、話條、*Khona Tiao* 滿漢兩文、オクタボ形一帖寫本、

二八、天文類、*Abkai Khatchin* 滿漢語類、一帖、寫本、本書は次に列記する第二九卷初七葉と全く同文なり、

二九、初學必讀、*Tsonktan tatchine ourse ourouna-kon khoulatchi (atchra) bitkhe*、漢人の天、四時、地、山等に下だせる名目に滿語を配記せるもの、六帖、光緒十六年九月の出版とす、

三〇、滿蒙漢話條子、*Mantsou mongo nikan Gisonn i mejen* 二帖、十二套各七十葉宛、寫本

三一、清語指要、*Mantsou gisonn i oiongo tsorin obitkhe*、四帖、寫本、

三二、欽定清漢對音字式、本書は發音上よりの研究を載せ、乾隆帝の勅により一七七二年(乾隆三十二年)に出版し、漢字を以て滿音を音譯し、且つ滿漢兩字を以て地名を列記せるものを

載す、

三三、漢滿兩國語の小句を集録せる寫本、其第一頁には本書集成者の官等を記し、*Hatchi seugi Adakha Khalan* 第三品……と見ゆれども其名稱を明らかにせず、

三四、合璧手北、二帖、漢滿兩文なり、

三五、圓音正考、一帖、道光十年の序、及原序あり、又後序を末尾に載す、皆漢文にして、内容の小引亦同文なり(中略)著者不明、龔氏之を集成し、現行本となりしは、充氏、烏扎拉族の滿人、文通氏の補助によりしと見ゆ、小紙三十葉あり、

三六、重刻清文虛字指南編、*Dasame lolokho nantsou gisonn i onntoukhoun khergen i temgeton tsorin bitkhe*、二帖九十九葉、滿漢兩文、(解題略す)光緒廿年鳳山の筆になれる本書重刻の序あり、原序は光緒十年五月福山の手に成れり、



三七、類編、四帖、

丙歴史的作品、紀行、傳記、

- 一、Beje Dailame Yargi Amangi habe netchikhija-me toktoboukha bodogon i bikhhe 西、北平定方略、一七〇九年版、六頁、メルンドルフ氏 第四百十八號、

- 二、讀史論略、Khoulakha soudouri i shoshokhon be leolekhe bikhhe 二帖、奧德、三合、共著滿漢

兩文、メルンドルフ氏第六十七號、

- 三、通鑑綱目、四十八帖、十六、メルンドルフ 百四十七號、譯者曰、著者本書を以て司馬光の著となす、何等かの錯簡なるべし)

- 四、繙譯史論、二帖、漢滿兩文寫本、初卷は、梁

史二卷は宋史に關する史論を載す、

- 五、Niobwangjan tomoun i Kouwaran 錄旗軍、滿文三帖、

- 六、欽定讀纂外藩蒙古回部王公表、Khesei toktob-

oukha sirame shehaboukha toulengi mongo Khoi-

se aiman vah iietoun 漢文より譯せるもの、六

十帖、メルンドルフ氏第六十五號、

- 七、皇朝清開國方略、六帖、

- 丁、哲學書、修身訓話、宗教及儀禮書、

- 一、Toungai shou tjielen (古文) 原文漢文滿文の譯文之に添ふ二帖、一八五一年出版、メルンドルフ氏第七十二號、冒頭に繙譯古文とあり、

- 二、禮記、Dorolon i nomoun 十二帖、漢滿兩文、メルンドルフ氏第六十三、御製繙譯禮記 四、an i arakha ybaliyanboucha dorolon i nomoun.

- 三、地藏菩薩本願經 Na i niyamanga fousa i da fo-

roboun nomoun. 一帖、滿漢兩文並記、

- 四、Daichin goumoun i badanga doroi gosin sou-ntsakchi anja erin forgon i ton i bikhhe. 大清曆

光緒三十五年、國內各地の大陽出沒の時間四時等を記し、又吉日、出生日と守護星、五行の人

生に對する影響等を列記す、滿文のみ、百葉一帖、

五、Khesei toktoboukha nantsonsai wetehere metere kooli bitkhe. 滿人犧牲を奉るの禮、寫本五帖、初四帖には犠牲供養の儀禮、祭文等を掲げ、次の一帖には祭祀用器具合計百十八種につき説明し、第六帖(版本)には祭式の圖を掲ぐ、本書の大部は、既に歐文に譯せられあり、Langles, "Rituel des Tartars-Manchoux"(本書の Notices et Extraits VII. p. 241—308 より再び版行せるもの)及 C. de Harlez, "La religion nationale des tartares et mongols, avec le Rituel tartare, traduit"等是なり、メルレンドルフ氏第百三十二號、

六、漢滿合璧潘氏總論、Mantson nikan Klengen Kantchikha panshi i shoshpkhon i leolen. 一帖漢滿兩文(中略)康熙四十六年三月和素の漢滿兩

文の序あり、

七、Wang jang ming sijad sheng ni tohuwang sillon bitkhe 王陽明先生傳習錄滿文寫本、六帖、  
八、Orba Ijamboukha ningoun baita targaboun gisonn bitkhe, 繙譯六事箴四帖一、(中畧)漢滿兩文の序あり、王鼎編、Men Bao 滿譯、メルレンドルフ氏第九十九號、  
九、Khan i Arakha khijso gidge bitkhei Sioi 孝經滿文にて天子の序あり、一帖、寫本、メルレンドルフ氏六十八號、  
十、Sing ii tsing je bitkhe. 御纂清文性理精義八帖二套メルレンドルフ氏第八十三號、及八十四號、滿文のみの寫本には此抄録本あり、全部四卷、一一、etsen i dore 二、性命、三、君道、  
四、小學、一あり、

一、Iian Khatchin gisonn i kantchiboukha geboungge saisa isaboukha bitkhe 三合名賢集、滿蒙

漢語、二帖、新版發行の年次記載なし、メン  
ン、第五十二號。

- 十二、Endouringe tatchikhijan be nelime badara-  
mboukha bitkhe. 聖諭廣訓、漢滿兩文、一卷康  
熙帝撰、雍正帝註、メン、ンド、ン氏第九十號  
には、本書に就き詳細なる解題ありて、ヨーロッパ  
學者の本書に關係の研究をも記載せり、  
Klaproth, Verzeichniss. p. 144; Nocentini, Il sa-  
nto editto di Kanghi e l' amplificazione de Yung-  
Ceng. Versione mancese ; Meadows, Transla-  
tions from the Manchu language with the origi-  
nal text ; Wylie, "Notes" p. 70; Harlez, Mé-  
moires de la Société des études Japonaises, Chi-  
noises, Book II,  
十三、Khan i arakha sain be Khouweijeouore  
Oiongo gisoun. 御製勸善要言一帖、漢滿兩文、  
十四、Khan i Arakha tsoulgei Shou fjejen i mou-

min boonlekon i bitkhe 清文古文淵鑑、四十帖  
六、滿文、春秋、戰國策、以下漢代より宋に至  
るまでの諸文學より拔萃せる文集、メン、ンド、  
ン氏第七十一號、Wylie "Notes" p. 194 尙ほ  
本書と同題名のものに寫本四卷のものありて、  
第一卷第二卷には、賢良對と題し、第三卷には  
仲尼在陳、第四卷には古文總目とあり、

- 十五、Khesei tokkoboukha mantousai wetchere  
metere kooli bitkhe de doboro tsing. Khatchin 稽  
文寫本一帖、  
十六、Mantson Nikan klengen kamschime soukhe  
san zui ging bitkhe, 滿漢合璧三牛經一帖、  
Klaproth, "Verzeichniss der chinesischen und  
mandschurischen Bücher" S. 146; V. d. Gadelen-  
tz, "Zeitschr. der deut. morgenl. Gesell." XVI,  
メン、ンド、ン氏第七十九號、  
十七、Wen tehang di gjoun endounri i boutou erd-

emoni bikhe. 文昌帝君陰騭文、三帖、滿漢兩文、道教に關せるもの、メルレンドルフ氏は其第二百二十九號に唯四葉を擧ぐるのみ、

十八、Tsakoun gonsai fargaboun 八旂蔵、

十八、同前の題目にて Jün Jün が漢文にて述べ、之に漢譯を附せるものあり、六帖、

十九、Tomnen igen be Aiboubouki seme 「人生を

快活ならしむるが爲め」一帖、滿文寫本、

二〇、Khan i Arakha onbalijamboukha dasan i nomoun. 御製繙譯書經、滿漢兩文、四帖一套、メルレンドルフ氏第五十七號、

二一、Shou tsing Khan i arakha nomoun i bikhe.

寫本一帖、滿漢兩文、

二二、Khan i arakha onbalijamboukha Zitsoungé nomoun. 滿漢合璧易經、漢滿兩文四帖、メルレンドルフ氏五十四號、寫本中一帖には朱書にて

校合せる處あり、

二三、Wetehen i batia be Alikha jamoun i kooli khatchin i bikhe 神に犧牲を奉る際の法則、寫本滿文、百帖以上、

二四、Mantsou nikan ging bikhei toktokho gissou-

滿漢經文成語、四帖、Klaproth, Verzeichniss, S. 141.メルレンドルフ氏第六十二號、

二五、Onbalijamboukha tsalan de oulkhouboupe oiongo gsun i bikhe. 繙譯醒世要言、本書の古版には、譯官孟保の筆になれる同治六年二月の序文の外、同治帝が軍機大臣に與へられたる親諭を載するも、新版には之を見ず、光緒二年の出版なり、メルレンドルフ氏第十六十六號、

二六、皇帝大行喪儀、滿漢兩文、

二七、Mantsou onbalijamboupe Azigan tatchin i bikhe. 繙譯小學、六帖、Klaproth, "Verzeichniss" S. 148; Wylie "Notes" p. 68;メルレンドルフ氏第七十三號、

二八、*gosiin* 仁、寫本一帖、滿漢兩文、

二九、滿文漢譯附寫本、其初章に *Tehengzui Khen-*

*doume dorolon i nomoun de lon gonroun* 一帖小

本三十六葉、漢字にては仕學金鏡合璧とあり、

三〇、*Oubaljambonkha deole tsounei douroun* 繙

譯弟子規、一帖十三葉、(中略) 同治二年の序あり、

三一、*Emon be tatehiñ ilan be khatonkijara manis-*

*ou Gisonn i boulekou bitkhe*。一學三貫清文鑑、

大本四帖、(解題略之) 乾隆十一年の序文あり、

屯圖後に之を補ふ、メルレンドルフ第九十七號、

三二、*Khan i arakha oubaljambonkha douin bit-*

*khe*。御製繙譯四書、漢滿兩文、六帖、首卷に

乾隆二十年の序文あり、メルレンドルフ氏第四

十九號、

三三、*Mantsou nikan i ging ni toktokho gisonn*、滿

漢易經成語、滿漢兩文、一帖、

三四、*Shang mengzoui, khija mengzoui*。寫本二卷、滿文、

三五、*Azige tatehikon be atahacouñ soukhe bitkhe*。

小學に關する註解集成、六帖、滿文のみ、

三六、三字經訓詁、滿漢兩文、一帖、

三七、*Mantsou nikan ging bitkhei toktokho gisonn*

滿漢經文成語、書經よりの成語、漢滿兩文、乾

隆二年著、二帖、

三八、繙譯孝經、三種あり、第二種には、新刊藏

板孝經なる表題あり、滿漢兩文寫本、

三九、易經、一帖、漢滿兩文寫本、

四〇、書經、一帖、漢滿兩文寫本、

四一、詩經、二帖、漢滿兩文寫本、

四二、*Dason i dorok*。治道、二種あり、第二種を

呻吟語といふ、第一種より完全なり、二種共に

寫本にして、漢滿兩文なり、第二種には、各部

門につき分類あり、

四三、品操、二帖寫本、初卷は漢文にして、二卷は滿文を正文とし、漢譯を附せり、

四四、Moutsin ihouenge. 立志、一帖、寫本滿文を正文とし、漢譯之に添ふ、初二葉には漢文の凡例あり、

四五、滿文寫本一帖、初葉に otsoyo okhode ta-tehin be...道を教ふ云々...とあるを見れば、明らかに初葉は散亡せしならん、

四六、古文淵鑑、九帖、大部は滿文にして、處々に漢字を挿入せる所あり、卷數は十千にて區分せらる、

四七、Dasan i nomun i da shoutoutchin i toktokho isoun. 書經本序成語、寫本滿漢兩文一帖、

四八、「道と教」滿漢兩文寫本二帖、  
四九、四書集詳、漢滿兩文一帖、  
五〇、一、Nenekhe bitkhei nijalmaj i gebou khala-  
古代學者(宋及元時代)名彙、二、Tatohin i khat-

chin outsou. Azigan tatohin 小學、兩書共に滿漢兩文、寫本にして一帖、卷首に漢文の目錄あり、

五一、Dasan i daro be onkheri leolekunge 總論治道、滿漢兩文寫本、卷首漢文目錄あり、

五二、Shi zui founng ha i djou djou jan bing ni ara-kha bolga weile be dasara be khatukihiana b itkhe. 師子峯如如顏丙勸脩淨業文、滿漢兩文寫本一帖、戊、詩歌小説、物語、

一、Mantsou nikhan khergen kamtchine Arakha si sijang gi outkehoun i bitkhe. 滿漢合璧西廂記、四帖、康熙四十九年一月の序文あり、

二、王義之蘭亭、一帖寫本、滿漢兩文、

三、Tian gounoun i bitkhe. 三國志、漢滿兩文、四十八帖、Dakhai が一六三三年に譯したるものなれども、いまだ完結せず、フランス語に反譯せるは Th. Pavil にして、初めの四十四卷の譯成れり、メルレンドルフ氏第二百三十三號、

四、Mantsou zui tsin ning mei bitkhe. 清字金瓶柳、四十八帖、王世貞(一五二六—九〇)著、乾隆帝の弟之を滿文に譯せり、Mayers(Reader P. 246, No. 817.) Wylie (Transaction, p. XIII. Notes, p. 162) Gabelentz/Zeitschrift d. d. morgenl. Gesellsch., XVI. p. 544.)本書の一部はギンナン氏がフランス文に反譯せることあり、メルンンドルン氏第二百三十五號、

五、Sontsofi onbaljamboukha jiao tsai tsai i bitkhe soudouri. 合璧聊齋志異、二十四帖六、三百種ばかりの小話集、中百二十九種以上はヨーロッパ文に反譯され居れり、Mayers (Reader No. 567. Notes and Queries, I. p. 24.)又或部分は H. A. Giles 氏がイギリス語に反譯して一八八〇年に出版し、Allen 氏は、其十九章をとめて、之を China Review II. III. IV. に譯載し、ロシヤ文にはワシリヒン教授が「其名家文集」に載せ

批評及び紹介

たるものあり、メルンンドルン氏第二百四十九號、

巳、律令格式、勅宣、報告、

一、Khaian i daean i oiongo be isaboukha bitkhe. 吏治輯要、八套滿漢兩文、メルンンドルン氏第二百十號、

二、Wesimboure bitkhe itchikhiyara batatalara tokokho gisoun 摺奏成語、四帖一套、

三、摺底俗用、寫本貳帖、滿文のみ、第一帖、告製、第二帖、吉記、

四、上諭、咸豐四、五年分、貳帖、滿漢兩文寫本、

五、Daitchin gounung iongkiyanga khounwandi endouringe tatchikhiyan 太清高宗純皇帝聖訓、全二十帖、滿文、メルンンドルン氏第二百七號、

六、Khesei toktokoukha tehookhai tsourgan i baita kooli bitkhe. 欽定續纂中樞政考、八套滿文、Mayers(Government P. 12.)メルンンドルン氏

第二卷 (一四三)

第二百六號、

- 七、Ilan khatchin i giscoun kamtchiboukha khafan i dasan i oiongo be isaboukha bitkhe. 三合吏治輯要、上掲第一に同じ、滿漢蒙三文、二帖、八、奏摺繕、全三帖、
- 九、Dergi adoun tsourgan i baita be oukheri kadara amban. 主馬寮職務規程、一帖、漢滿兩文、
- 十、Wasimboukha mantson nikan khergen boukdari danse. 「袖珍滿漢兩文上諭集」一帖、
- 十一、Tchokhai naskhoun tsourgan tohi dakhoume giscounef baouzikha baita dangse. 軍機處要覽、三帖、
- 十二、Tchokhan tsourgan i ginggouleme wesimbo-ure kooli bitkhe, 中樞院奏議纂、一帖、
- 十三、Khesei toktoboukha tchookhai tsourganu sirame i baanzibankha, baitai kooli, bitkhei schokhon. 「中樞院布令續纂」二帖、寫本滿漢兩文、
- 十四、Khesei toktoboukha toutlengi golo be dasare tsourgan i kooli khataiin i bitkhe. 「外國事務衙門告文集」滿文、六套メルレンドルン氏第二百五號、
- 十五、Foundan de dosif oulkhiboume selgijekhen-ge. 入關告諭、漢滿兩文寫本一帖、
- 十六、Khjao wen di touktekhe i kounoun maksin be toktoboukha wasimboukha selgijere khese. 定孝文廟樂舞詔、滿漢兩文寫本、一帖、
- 附、
- 一、職務、官等、章程、原文滿語漢譯之に副ふ、一帖、
- 二、Doron ba i alarange amasi bitkhe. 滿文官廳往復文例、一帖、寫本、
- 三、Bepri babou 把弔上上、(兵事教範寫本滿漢兩文一帖、



以上掲げた書目は余が今回坊間及知人的關係より

得た滿文圖書の一斑である、此等の書には、メルレンドルフ氏 *Essay on Manchu Literature* 中に擧げられて居るものもあるが、此は滿洲の草深い處でなくては本が得られぬといふこと、滿文の圖書が、近年になつて多く世に出た事とが原因となつて、此ういふ現象を呈したものと考へられる。

然し、メルレンドルフ氏が既に見た書物は、前に掲げた様に、氏の名と、其番號を示して、讀者の注意を煩はして置いた。

自分が今回探訪した滿文圖書(一六九—一七〇種)と、滿文圖書目錄 *Katalog mandschouiskih knig* (八十五種) *Catalogue of Manchu Library* 及メルレンドルフ氏解題(二四九種)等に見えた書名と比べると、諸書に見えぬものが、百種以上もある、これから、イワノフ教授、メルレンドルフの文獻に關した著述は、不完全なものと云はなくてはならぬ事と

なる。

前掲諸書は、丁類に屬するもの、即ち哲學宗教等に關したものが六十餘種、乙類、即ち滿文口語研究に屬するもの約四十餘種で、最も少數なのは、戊類即ち詩歌小説の類であるが、北京で圖書を蒐集してゐた時にも略ぼ此割合て書物を見た。

又北京に居る滿人の所藏する圖書を調べた處では、史類、道德に關係した物を最も多く目を通したといはなくてはならぬ。

歴史、地理等に關した書物を世間で需要する度が増加し、益々増加する傾向を呈してゐるので、書物の部數も増加し、新著述も現はるゝ様子である、處が小説物語の類は、殆んど新作を見ぬといふても良い、して全局からシナ人の勢力が滿人に對して日に増加するので、文學上にも、此影響が著しく現はれてゐる。世間には將來滿文の勢力がとうなるだろゝとの問をなす人があるが、吾人の視る所では、滿人の居住

(堀竹雄抄譯)

する地の學校で、滿文を教授はしてゐるものの、シ  
ナ文學の影響が余程強いから、滿語滿文は極めて緊  
い範圍の内に行はるゝに止まると云はなくてはなる  
ま。

今日滿語滿文の勢力を保つてゐる地點は何處かと  
いふと、滿州文明のまた消滅してゐない地點、即ち  
北滿州のソロン、ダフル(海拉兒、齊々哈爾、附近)ゴ  
ルド(松花江沿岸)、オロチオン(三姓、墨爾根、愛琿  
地方)等の住地といはねばならぬ、ツングース族  
間にも、滿文が行はれてゐるから、立派に此地方も  
滿州文學の勢力の存する地といはれる——將來も、  
此種族は滿人と血族的關係が親近であるとか、歴史  
が密接してゐるとか、文化の程度性質宗教が類似て  
あつて、どちらも極めて草昧の生活をなし、教育所  
も殆んど同一の言葉即ち滿家兩文を教授してゐるか  
ら、滿文學を保存するであらう。

(以下滿文書目あり日下省略す)